

令和5年度 第16回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和6年3月5日（火）15:00～16:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：7名

新垣真太郎（沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班主任）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：3名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）

陪 席：1名

西佐和子（琉大病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和5年度 第15回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. 第2回医療者調査の進捗について

増田部会長より、資料2に基づき、第2回医療者調査の進捗について報告があった。

3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）における所掌分担について

増田部会長より、資料3に基づき、協議会における活動についての基本方針と各部会の所掌分担について報告があった。

4. その他

特になし。

【協議事項】

1. 沖縄県がん診療連携協議会部会の申合せの確認について

増田部会長より、資料4に基づき、部会の申合せについて確認が行われた。協議の上、修正しないことになった。

2. ロジックモデルを用いての次年度の活動計画について

増田部会長より、追加資料に基づき、協議会でPDCAサイクルをまわすために専門部会で行うことについて説明があった。

3. 各部会におけるロジックモデルを用いての次年度の活動計画をどのように行うか

- ベンチマーク部会としては各専門部会にフルロジックモデルを提供し、進捗管理と評価改善を行っていただく。
- また、フルロジックモデルとは別に、評価シートや進捗管理報告書のようなものを提供する。雑務ではなく思考に集中できるようなシートを作る必要がある。専門部会の負担をなるべく減らすために、書くといった単純作業は事務局が行う。

4. 当部会の所掌分担領域の進捗・評価について

- ベンチマーク部会の所掌分担は「がん登録の利活用の推進」だけになるが、協議会が直轄した部分（研究の推進、人材育成の強化、がん教育及びがんに関する知識の普及啓発と患者・市民参画の推進）も含めたフルロジックモデルで進捗管理と評価改善を行う。
- 「市民参画の推進」について、具体的な施策をディスカッションすることが必要である。県民対象の調査に当部会から質問項目を追加できないか調べる。東京都は都民調査、施設調査、患者調査の3つを使っており、今後の参考にする。

5. 次回の開催日程について

- 6月開催予定（2024年から3月、6月、9月、12月に開催）
- 増田部会長より、専門部会で何か問題が出たりする場合は、ベンチマーク部会でディスカッションをして、指標作りや指標の見せ方、施策作りを各専門部会にアドバイスしなければならないと思います。年四回開催というわけにはいかないと思われますので、開催の間隔をもう少し短くお願いしないといけないと思います。

6. その他

増田部会長より、次回部会の協議事項について、提案があった。

- 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）と県計画の指標をどういうふうに測定して、協議会運営サイト「うちな〜がんネットがんじゅう」の場で見せていくのか。
- ロジックモデルはあるが、指標が決められていない部分の指標をどうするか。
- 現在出せる指標の値を評価する。